

盛金富士&熊の山山行報告

【山行日】2025年 3月 30(日) 晴れ
【集 合】道の駅「しもつけ」P AM 6:30
【費 用】マイカー1台 : 1,100円
【メンバー】CL:鈴木、SL:大西
飯口、植竹、大塚、佐藤、関、福島

【コースタイム】道の駅「しもつけ」6:30＝
下小川駅 P8:10/8:30～盛金富士 9:20/9:55～
平山橋 10:30～見晴台 11:20～熊の山
11:40/12:05～熊の山登山口 12:30～そば道場
慈川翁 12:35/13:15＝下小川駅 P13:20/13:30＝道の駅「しもつけ」15:40

盛金富士は去年のこの時季に登り、イワウチワの花をもう一度見たいとリクエストがあった。今回も同じコースで登る計画を立て、盛金富士から熊の山を周遊コースで登ることにした。



道の駅「しもつけ」を6:30に出発し、新4号線を北上し鬼怒川橋を渡ってそのまま直進し県道10号線を進む。烏山市街を通りそのまま県道29号線を進み、国道293号線にぶつかったら右折する。道の駅「みわ」に寄ってトイレ休憩し、美和郵便局の先を左折し県道32号線を進む。山間の道をのどかな山村風景を見ながら走り、上小川駅の先から国道118号線に出て右折して久慈川沿いに進む。盛金から県道320号線に右折し、久慈川を渡ると下小川駅に着く。現地直行の佐藤さんはすで

に着いていて、トイレを済ませて出発の準備を整える。ストレッチを済ませたら出発し、舗装道路を右に進んで民家の先を左折し鳥居が立つ所が盛金富士の登山口である。金色の鳥居の前で記念写真を撮り、自然林の山道を登って行く。しばらく登ると明るい伐採地に出るが、伐採後植林した木が成長し以前ほど展望は良くなかった。小休止して衣服調整を行い、水分を補給したら出発する。ここから先は急登が続き、登山道の右側の斜面にイワウチワの可憐な花が見られるようになる。イワウチワの群生地には踏み跡の道が出来ていて、イワウチワの花を真近で見ながら登って行く。急斜面に付けられた道なので滑りやすく、滑落しないよう慎重に登って行く。ウワ～綺麗！ウワ～凄い！と声が聞こえ、皆さん急坂をものともせず登って行く。まだまだ奥にイワウチワの花は続いていたが、我々は途中から登山道に戻り山頂に向かう。急坂を登ると山頂に着き、ベンチやテーブルがあり祠や三等三角点が置かれている。



平
久



ベンチで休憩を取り、展望を楽しみながらおやつをいただく。下山は南に急坂を下り、滑らぬように



慎重に下って行く。右下に碎石工場が見えてくると道路に出て、民家の間を下り下小川駅への道路に出る。左折したら直ぐに右に下り、踏切を渡って久慈川に架かる平山橋渡り対岸に出る。対岸の国道を横切って坂道を進み、のどかな山村風景の道を進むと熊の山への登山道に入る。雑木林の広い山道を緩やかに登り、道が狭くなると傾斜がきつくなる。やがて展望台と呼ばれる見晴らしが良い場所に出て西側の展望が開け、つい先ほど登った盛金富士

がすぐそこに見える。ここからもアップダウンを繰り返して尾根道を進み、ピークを3つほど越えたと下小川駅からの分岐に出る。下山は左の道を下るが、熊の山へは右に登って行く。直ぐに高井釣への分岐に出て左に登ると鳥居をくぐり、急な階段を200段ほど登ると熊の山山頂に出る。山頂は広く熊野神社が祀られ石灯笼などが建ち、信仰の篤さを感じる山頂である。展望は雄大で八溝山や奥久慈男体山が見渡せる。山頂の先の展望

が良い岩場で休憩し、リンゴや菓子をいただきエネルギーを補給する。展望を楽しんだら記念写真を撮り、往路を下小川駅分岐まで戻って下山する。分岐からは植林帯の薄暗い道を下り、墓地を過ぎると下小川登山口に着く。ここから国道を横切ると「そば道場久慈川翁」あり、ここでランチをいただく。ここはそば打ち体験や足湯に浸かれ、常陸秋そばをいただける。お勧めの「やまめせいろ」や「鴨



せいろ」等をオーダーし、やまめの唐揚げがとても美味しかった。SL は昼食を食べないで車を取りに行ってくれ、我々が食べ終わると駐車場に車が着く。靴を履き替えたら車に乗り帰路に着く。途中、道の駅「みわ」に寄り、トイレとお買い物。野菜や果物が安く、ミツバは1把30円と超お買い得で、数把購入した方もいた。鬼怒川橋手前から新しくできた「清原学園通り」を進み、渋滞も無く走れて予定より早く道の駅「しもつけ」に帰着した。